

「SDGsキーホルダー」製作班

学びの成果 市長へ報告

水沢工高



倉成淳市長らに「SDGsキーホルダー」を贈った水沢工業高校機械科3年の6人

県立水沢工業高校（日當仁）校長、生徒376人、機械科3年のキーホルダー製作班6人は、課題研究でアルミ缶を再利用して製作した「SDGsキーホルダー」を市に寄贈した。13日、市役所本庁を訪ね、倉成淳市長らにキーホルダーを手渡し、市内の企業や団体の協力を得て形にすることができた学びの成果を報告した。

同班は、同校の3年生が取り組む課題研究の一環で、実習で得た鑄造技術を生かし、昨

今話題のSDGsにちなんだものづくりに挑戦しようというテーマを設定。回収したアルミ缶からキーホルダー約150個を製作した。キーホルダーは奥州市版のSDGsのロゴをデザインしており、市の取り組みをPRする。

6人は日當校長、指導担当の松川勇太教諭と一緒に来庁。倉成市長と同校OBの菅原由和市長らが出迎えた。

贈呈式では、1人ずつ製作を振り返った。リーダーの菊地駿太さん(18)は「SDGs」という言葉は、聞いたことはあったが実際にはどういふことか分からなかった。社会全体の課題も、道に落ちてい

るごみを拾うように一人一人が頑張る行動することで達成できると学んだ」と述べた。

キーホルダーを受け取った倉成市長は「園児らとのつながりができたように、活動を通じて人と交流するきっかけを生み出したのが良かった。これからの時代を生きる園児たちに、地球環境を守る大切さを伝えてくれたこともうれしい。キーホルダーは鑄物の感じと力強い鮮やかさが素晴らしい。大事に使いたい」と感謝した。

と感謝した。

キーホルダーは昨年12月、稲瀬わかば園の園児らにプレゼント。市役所への表敬訪問に合わせて同日、水沢鑄物工業協同組合や協力企業に完成品を届け

